

令和元年度老人保健健康増進等事業

＜認知症サポーター等による認知症当事者本人及び家族にかかる支援方策に関する調査研究＞

＜特定非営利活動法人ミーネット＞

認知症当事者本人・家族の困りごとに対応する身近な支援者として、認知症サポーターが実際的な支援スキルを習得すると共に、活発な活動を展開するための仕組みづくりを目指して、「認知症サポーター養成や活動に係る好事例・先行事例のヒアリング調査」ならびに「支援当事者の声を活かした認知症サポーター活動の仕組みづくりワークショップ」を実施した。それぞれの成果や課題、問題点について分析・考察するとともに、認知症サポーター活動の仕組みモデルの提案および支援の実践に即した研修ガイドの作成を行った。

1) 認知症サポーター養成や活動に係る好事例・先行事例のヒアリング調査

長野県駒ヶ根市、名古屋市、西山田ふらっとサロン（大阪府吹田市）、NPO法人杉並介護者応援団（杉並区）、群馬県立県民健康科学大学を対象に調査を行った。地域の実情に合わせて様々なステークホルダーとともに、地域課題に対するニーズとサービスをコーディネートする要として、小回りの利くNPOや市民団体の存在が大きいことが分かった。また、必要に応じて学問的見地から大学教員等の研究者が理論化を図り融合していくスタイルも着目すべき点であり、今回の好事例・先行事例のなかに「産学官連携」の姿を確認できた。同時に、認知症サポート活動において、ニーズとサービスをコーディネートする「マネジメント・システム」の構築が課題であることが明らかになった。

2) 支援当事者の声を活かした認知症サポーター活動の仕組みづくりワークショップ

認知症サポーター養成講座を受講した人および自治体職員、NPO団体関係者、認知症専門医、研究者等が一堂に会してワークショップを実施した。多様なステークホルダーによる自由な討議では、認知症支援にかかわるそれぞれの立場によって、多様な意見が抽出された。その要素をつないでいくためにも「マネジメント・システム」が不可欠であることを共有した。

3) 認知症サポーターがいきいきと活動する「チームオレンジ」実現のための提案および活動展開プロモーションビデオと“ピア”家族サポーター養成ガイドの制作

1) 2) の調査研究等から、認知症サポーターがいきいきと活動する「チームオレンジ」実現のためには、活動を牽引するリーダー人材の循環型育成による継続性の確保、「マネジメント・システム」構築が課題であることが明らかになった。人材育成のためには実践的かつ参画型のステップアップ研修が求められる。グループワークでの事例検討やロールプレイ、グループホームなどでの現場実習などを通じて、ボランティア活動のモチベーションとなる「仲間づくり」「生きがいつくり」にもつなげていくための、実践力を養う研修の方法として、活動に意欲をもつ実行性のある人を少人数で育成し、自主的な活動への発展させる仕組みを提案した。また、本事業を通して、認知症の人を介護した体験を持つ家族の存在がクローズアップされた。認知症家族介護体験者は、その体験とモチベーションから、チームオレンジの力強い担い手となる可能性がある。これに関しては、ステークホルダーの声を活かした制作物(DVD)に提案として反映した。